

博士前期課程(修士) / 助産看護学領域 / 助産看護学分野科

目コード:280013

助産実践実習 I-2(正常) Midwifery Practicum I-2(Normal nursing)

担当教員	曾山 小織、亀田 幸枝、河合美佳				
実務経験					
開講年次	2年次前期	単位数	3	授業形態	実習
必修・選択	選択	時間数	135		
該当ディプロマポリシー	(1)	(2)	◎	(3)	○
Keywords	ローリスク妊産婦・新生児、妊婦健康診査、助産師外来、分娩介助、産後の母子健康診査、母乳育児支援、健康相談、継続事例				
学習目的・目標	<p>学習目的:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期において、ローリスク母子とその家族に対して、助産師としての職業倫理と女性中心のケア(尊重・安全・パートナーシップ・ホリスティック)・家族中心のケアを基盤に、各期の連続性と個性を重視した、根拠に基づく助産実践ができる。 2. 様々な助産の場や人々との関わりを通じて、専門職としての役割と行動、多職種との連携等を理解し、助産師としてのアイデンティティを育むことができる。 <p>学習目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象に、生理的経過と健康状態を促進する助産過程を展開し(観察・アセスメント・助産診断・計画立案・実施・評価)、実践できる。 2. 妊娠期から産褥・新生児期まで、助産の対象を継続的・総合的に捉えて助産過程を展開し、助産実践と助産師としての役割・責務について理解できる。 3. 職業人となるに向けて助産師職の果たすべき役割行動をとり、母子とその家族を支援するチームメンバーとして自らの助産実践の課題を示すことができる。 4. 自己の助産師像をイメージし助産観を表現できる。 				
授業計画・内容					
回	内容	授業方法	担当		
	<p>妊娠期実習 助産外来等でローリスクまたは正常経過の妊婦の妊婦健康診査を行う。</p> <p>分娩期実習 正常経過の産婦の分娩期の助産診断を行い、分娩進行に伴う産婦と家族へのケアおよび分娩介助を行う(助産実践実習 I-1と合わせて10例以上)。 出生直後の母子接触、早期授乳への支援、分娩想起への支援を行う。</p> <p>産褥・新生児期実習 産褥の産後の回復や新生児の胎外生活適応を促進するケアを行う。</p> <p>* 詳細は実習要項参照</p>	実習	曾山 亀田 河合		
教科書	各種講義で使用したテキスト				
参考図書等	随時紹介する				
評価方法・基準	評価はポートフォリオ(実習記録・自己学習資料等)、実習態度等から総合的に判断する。				
関連科目	助産診断・技術特論演習 I (概論・妊娠期)、助産診断・技術特論演習 II (分娩期)、助産診断・技術特論演習 III (産褥期・新生児期・乳幼児期)、助産診断・技術特論演習 IV (ハイリスク)、助産実践実習 I-1(正常・継続)				
教員から学生へのメッセージ	助産実践実習 I-1で培った知識・技術・態度をさらに発展させ、妊産婦・新生児およびその家族に寄り添う助産実践能力を高めていきましょう。実習では、教科書で学んだ理論と臨床現場のリアルな実践とを結びつけながら、対象の個性を尊重したケアを主体的に考え実施することが求められます。一つひとつの経験を丁寧に振り返り、自己の課題を明確にしながら成長を積み重ねてください。安全で満足のいく妊娠・出産・育児の実現に向けて、ともに力を尽くしましょう。				